

環境活動報告書 2001

株式会社 西武百貨店



環境方針

西武百貨店は、環境にやさしい企業活動を心がけ、
お客さまや地域・社会と共に、
豊かな社会づくりに取り組みます。

1. 「お客さま」と「お取引先」を結ぶ「小売業」として、
率先して環境問題に取り組みます。
2. 「ごみを出さない」「再利用・リサイクルの促進」に重点をおいた目標を定め、
それを達成するために仕事のしかたや仕組みを見直し、更なる改善を推し進めます。
3. 社員一人ひとりが環境問題に自発的に取り組むために教育活動を展開し、
快適な環境の提供を通じて、
お客さまへのサービス向上と社会への貢献に誇りをもつ企業風土を築きます。
4. 法規制の遵守はもとより、挑戦的な自主基準をつくり、常に活動の向上を心がけます。

この環境方針は、全社員に周知するとともに、社外にも公開します。

制定：1998年9月1日

改訂：2001年4月1日

2001年度版 環境活動報告書について

この報告書は、当社の事業活動に伴う環境負荷の発生状況や環境保全活動の成果を、お客さまをはじめとする地域社会の皆さま、そしてお取引先企業の皆さまにわかりやすく紹介することで、当社の環境保全活動をご理解いただくことを目的としています。また環境活動報告書を通じ、当社の環境活動の推進状況を社会から監視していただくなかで、環境保全活動の継続、拡大を促進することも目指しています。

小売業として環境負荷の少ない商品の開発や店舗運営の仕組み、関連法規への対応など、できるかぎり詳しくご報告し、生活者の皆さまとともに問題解決を図っていきたいと考えています。環境に関するお客さまの声に耳を澄ませ、最善を尽くす所存です。当報告書および当社の取り組みについてご意見・ご要望をお寄せいただければ幸いです。

報告対象期間：2000年3月～2001年2月

具体的な活動については2001年6月までの情報も盛り込んでいます。

記載内容の範囲：西武百貨店全社

目次

環境方針 / 2001年度版 環境活動報告書について	1
ごあいさつ	2
西武百貨店のエコガイド	
事業活動における環境への影響と対策	3
西武百貨店のエコスピリット	
環境にやさしい商品づくり	5
「環境商品」は212アイテム	7
環境活動は売場から	8
企業・自治体の環境ニーズに応える	9
ショッピング環境の安心・安全	11
お客さまに支えられている環境活動	13
西武百貨店の環境マネジメント	
ISO14001登録状況 / 環境マネジメント推進体制	14
環境教育 / 環境関連法規の遵守	15
環境コミュニケーション	16
1998-2000年度 環境活動の成果と目標達成度	17
2000年度 環境会計	18
1998-2000年度 活動内容と成果	19
2001年度からの新たな活動目標	23
ISO14001 第2回定期審査報告	25
環境活動のあゆみ / 会社概要	26

お客さまとともに環境問題に取り組み より良い社会を目指していきます

地球温暖化による気温の上昇、オゾン層の破壊、廃棄物の問題など、環境問題は地球規模で拡がり、社会の一員としてわれわれ企業が果たす役割も日に日に重要性を増しています。私どもが社会との接点として関わるお客さまの意識にも、“モノを大切にしよう”といった生活感が顕著になってきていることは事実です。

こうした現状において、当社は、環境保全に少しでも寄与していこうという思いのなかで、役立つ商品やサービスの提供に努め、お客さまの環境意識にお応えしていくことを日頃から心がけております。また企業のコンプライアンスの立場からは、環境関連の法令・条例などの遵守、自社の活動に関する情報開示を積極的にすすめ、循環型社会の一助となるべく努力しております。

当社では、お客さまの喜びを実現する「サービスマニアカンパニー」を企業目標に掲げています。「サービスマニアカンパニー」とは、お客さまの環境意識も含めた生活に対する価値観を自らのものとし、つねにお客さまにとっての「最善」を尽くす姿勢のことです。「最善」を尽くすからには、そこに終点はありません。お客さまの声に耳を傾け、考え、行動し、さらなる改善を図っていく。こういった精神が、当社の環境マネジメントシステムにも息づいています。当社では環境への取り組みも、お客さまの喜びを実現するサービスマニア運動のひとつなのです。

1999年4月にISO14001規格の認証を取得して以来、当社は環境マネジメントシステムを運用し、つねに活動のレベルアップに努めてきました。今後もさらに、あらゆる側面で環境活動を活発化させて、お客さまや地域・社会の皆さまといっしょに、真に豊かな暮らしを追求していきたいと考えております。



株式会社 西武百貨店
代表取締役社長

堀内 幸夫

毎日の営業活動のなかで 環境を守る取り組みを行っています

2up3down運動 P20

階段の利用を呼びかけ、エレベーター利用による電力消費を減らします。

スキャン検品 P20

バーコードスキャンの検品により、伝票類の使用枚数を大幅に削減しています。

再生資材を利用した 売場ツール P18-22

再生PET素材でつくられたプライスカード入れ、再生紙によるポスターなど。

お客さま用分別ごみ箱 P13-19

「新聞・雑誌」「カン・ビン・ボトル」「その他」の3分別にご協力いただいています。

百貨店統一ハンガー P19

統一のハンガーを百貨店やアパレルメーカーの間で繰り返し使用します。

外周清掃

毎月1回、社員たちにより周辺地域の清掃を行っています。 P12

適正包装 P13-20

お客さまのご希望をお聞きしながら適正包装をし、紙資源の節減に努めています。

環境にやさしい商品の 開発・販売 P5-7-21

有機食品の品揃え充実や、おしゃれなエコバッグ販売によるマイバッグ運動の推進など。

容器回収 P13

食品トレー、ペットボトル、牛乳パックなどの資源リサイクルの窓口となります。

社員用分別ごみ箱

「ペットボトル」「ビン」「カン」「ビニール・プラスチック」など7つに分別。

P19

洗面所の節水

水道に取り付けた節水コマや女子トイレに設置した擬音装置で水資源を節減。

P21

リサイクルボックス

片面使用済みのコピー用紙や新聞・雑誌などを分別リサイクル。

P19

エコ素材の制服

女子社員の制服、社員バッチ、社員証に再生PET素材を使用しています。

P22

P21

納品代行システム

メーカー・問屋からの個別納品ではなく、納品代行会社が商品を集荷し、店舗への納品を集約して行うことにより出入り車両数を適正化し、排気ガスを削減します。

P20

こまめな消灯

蛍光灯を個別のスイッチにし、個々に管理責任者の節電プレートを付け、消灯を徹底。

P20

コピー使用管理の徹底

両面コピーや枚数制限を徹底。用紙は古紙混入率70%です。

P11

外気冷房システム

電気で水を冷やして冷房する代わりに、外気を利用して冷房。電力の節減が図られます。

P21

ボイラーのチェック

重油使用のボイラーには、環境に負荷をかけない安全稼働を図るための使用基準を明確化。

外商事業部の環境ビジネス

飲食チェーンをはじめとするお客さまに、環境機器などをオペレーションの仕組みとあわせて販売。P9-10-22

P19

リターナブルコンテナによる納品

繰り返し使用することで、ダンボールの使用・廃棄を削減し始めています。

P11

エコステーション

店舗で発生したごみを分別・保管し、各種機器によりリサイクルに向けた中間処理を行います。

P11

エコステーション見学会

地域の方々が身近で学べる環境教育の場として活用されています。

P19

ハンガー納品

メーカーから売場までハンガーにつるしたままで輸送。ダンボール、テープなどの消費を抑制します。

P22

フロン使用機器のチェック

冷凍食品ケースの温度管理を徹底し、フロン漏洩などの事故防止・安全な稼働を維持。

環境にやさしい商品は お客さまに喜ばれる商品から生まれます

身体にやさしくて ファッションブルな食品「**OA O**」

豊かな時代のなかで、お客さまの「おいしい食」へのこだわりはますます強くなっています。一方、有害物質の混入や遺伝子組み換え作物などへの不安から、「安心して食べられる」安全な食品を望む声も急速に高まってきています。そうしたニーズに両面から応えられる商品として、当社が2000年秋から取り扱いを開始した商品が「OA O」です。

原材料はオーガニックだけを使用

OA Oはフランスの著名なクリエイターであるフィリップ・スタルク氏の「美食と健康を同時に実現する食品をつくりたい」という思いから、ベルギーの食品加工メーカーとマーケティング会社が共同開発して生まれた有機食品ブランドです。原材料にはオーガニック(有機栽培農産物)であることを証明できるもののみを使用し、食べ物本来の味と香りを生かしています。製造工場の全工程から輸入・倉庫管理にいたるまで、安全性を徹底的に追求してお客さまの食卓にお届けしています。

おしゃれで新しい食のスタイルとして提案

ファッションリーダーストアを目指す当社では、「OA Oのある暮らし」を新しいライフスタイルとして提案し、食品だけでなく、おしゃれなオーガニック製品のトータルブランドとして大切に育てていこうと考えています。現在は、ギフト需要中心の展開をしていますが、「安心・安全」「本物」にこだわるお客さまからのご要望に応え、さらに品揃えの充実を図っています。



パッケージデザインもフィリップ・スタルク氏の手によるもの。百貨店に求められるデザイン性やおしゃれ感にも応えられる商品です。



各店舗のギフトセンターでは、OA Oやオーガニック食品についてお客さまの疑問にお答えする「OA Oレディ」がスタンバイ。

国内外で「オーガニック」の認証を受けています



有機JAS OA Oは、2001年4月のJAS法改正によって、素材の生産地や成分内容を証明できる食品のみに限定された「オーガニック(有機栽培農産物)」の表示を許されています。



ビオ ギャランティ ベルギーの認証ラベル。認証された成分が製品に95%以上含まれていることを証明。OA Oは、この他にも同水準の認証機関「AB」(フランス)、「Skal」(オランダ)、「SOIL協会」(イギリス)の認証も受けているほか、欧州の基準に照らして農家から加工業者にいたるまで、有機栽培製品の正当性をコントロールしている欧州の独立機関「エコセル」からも認証を受けています。



リマ エキスパート ヨーロッパの各国機関からも検査依頼のある独立研究所「リマ社研究所」の認証ラベル。OA Oは完全な有機栽培ネットワークを管理するため、欧州基準を上回る同研究所の厳しい品質テストを常に受けています。

Topics

安全・安心でファッションブル 百貨店ならではの食品ブランドに育てたい

商品部 食品部 バイヤー
稲富 仁

OA Oは「本物のオーガニック」だからこそ実現できた「本物のおいしさ」を楽しめる商品です。洗練されたパッケージをはじめ、お客さまからの高い要望にお応えできる、ライフスタイルを支えるトータルなラインナップにし、日本でもOA Oの世界をお客さまに楽しんでいただき、環境にやさしくつくられた食品はおいしい、という実感を広げていきたいと考えています。



おしゃれと使いやすさでニーズに応える オリジナルエコロジーバッグ

2000年6月からハンドバッグ売場と食品売場を拠点に販売を開始した「西武オリジナルエコロジーバッグ」1年間で約4万枚のお買い上げがあり、現在にいたるまで「静かなロングセラー」となって、幅広いお客さまからご支持いただいています。

環境にやさしく、おしゃれな点が人気の理由

このエコロジーバッグは、「若い人でも持てるおしゃれなオリジナルバッグ」をつくらうとして開発が始まりました。トレンドを反映したカラーを採用し、ファッション性を高める一方、デザインはシンプルに。多様なシーンに応じてご利用いただけるように機能性にこだわり、デザインも複数取り揃えました。こうしたデザイン性や機能性を支えているのは再生ポリエステル。ペットボトルのリサイクルによって生まれる素材です。おしゃれで使いやすく、結果的に環境にもやさしい点が評価され、学生・OL・主婦の方々などに幅広くご愛用いただいています。

普段のお買い物からギフト用まで広がる用途

発売以来の定番となっているのがウラ・オモテで使えるリバーシブルタイプと内ポケットやキーフックを備えたトートタイプ。そこに加わったマチの広いキューブタイプはお客さまのご提案から誕生しました。さらに2001年6月にはポケットブルの「くるくるタイプ」を発売。皮ベルト部分には天然ナメシ液を使ったタンニンナメシ皮を使用しています。またギフトセンターではお持ち帰り用大型タイプを限定販売。ビールやジュースのご贈答用詰め合わせもすっぱり入ります。

収益金の一部は「地球環境基金」へ

収益金の一部は、環境活動を行う国内の団体・NGOの活動援助のため、「地球環境基金」に寄付します。2001年4月9日には、販売開始(2000年6月)から2001年2月までの販売分として、100万円の寄付を行いました。



旅行のときなど携帯に便利なポケットイン・くるくるタイプ(35×46×14cm、クロ・アカ・カーキ)各800円。1.5ℓペットボトル3.5本分の再生素材を使用しています。



定番のリバーシブルタイプ(40×35×11cm、カーキ×クロ・ブルー×チョコ・ピンク×ベージュ・ブラウン×コーラル)各800円。こちらは1.5ℓペットボトル4.5本分。

Topics

気の利いたギフトとして 喜ばれています

オリジナルエコロジーバッグは、“使える記念品”としてもご注目いただいています。例えば東京都新宿区の中落合一丁目みどり町会(会長・北原和佳様)では、町内会10周年の記念品として、当社のエコロジーバッグ(町内会の紋章入りタグでオリジナル化)を約500軒の町内会員に配布されました。軽くて丈夫、雨にも強い、男女を問わず持てる、汚れにくくて洗濯もできるなど、会員の方々からご好評をいただいています。



写真左から会計担当・鈴木徳治様、防災部長・梅原武雄様、リサイクル部長・栗原明美様。

西武百貨店が認定した独自の「環境商品」は 212アイテム(2001年2月現在)になりました

環境と人にやさしいベビー服

妊婦の方や出産直後のお母さま方の中には、赤ちゃんにとって安心・安全なものを熱心に探している方も多くいらっしゃいます。そんな方のために地球環境にもやさしい素材のみを使ってつくられた、赤ちゃんの肌をやさしく包む肌着やベビウェアを幅広く取り揃えています。

完全無農薬と認定されたオーガニックコットン

オーガニックコットンは農薬・化学肥料・除草剤を使わない農法によって栽培された綿花。通常の綿花は生地になるまで漂白や染色などいくつもの段階で化学処理をされ、それが肌のアレルギーの原因にもなります。それに対してオーガニックコットンは、化学薬品を使わない無染色・無漂白。肌にやさしく、さらに染色による水の大量使用、排水による汚染の心配もありません。

使用後は土に還る環境にやさしい素材「キトポリイ¹」

キトポリイは、木材パルプから生産される植物性繊維「ポリノジック」に、カニやエビの甲羅に含まれている保湿作用と抗菌作用のある天然物質「キトサン」を独自の製法で練り込んだ繊維。敏感な肌にもしっとりやさしく、刺激の少ない植物性繊維です。天然の素材なので、使用後は土に還ります。

衣料アレルギーの方にも安心な新素材「ラ・モルフェ²」

ラ・モルフェは敏感なお肌にやさしい低刺激素材。その効果は衣料アレルギーの方による実証テストで認められています。

1キトポリイはフジボウの登録商標です。 2ラ・モルフェはシキボウの登録商標です。



「愛・情・設・計」は、赤ちゃんの成長にあわせてからだにぴったりフィットするように、サイズのピッチを細かくに設定しています。肌にやさしく安心です。

省エネ時代のオフィスで 快適に過ごすための紳士衣料

社会的に省エネ意識が高まり、企業でもクーラーの設定温度を上げるなど、取り組みを強めています。オフィス環境が変化するなかで、ビジネスマンの方々が快適に仕事をするための、機能性に配慮した衣料品の取り扱いを拡大しています。

清涼感あるシャツ「ひやっとクール」

アクアティックファイバー「ソフィスタ¹」の効果により、汗や水分を素早く吸収・発散し、清涼感のある着心地が続きます。形態安定加工なので、洗濯機で洗ったあともノーアイロン。手間が省けるのはもちろん、商業クリーニングによる排水やアイロンかけによる電力消費も抑制できると考えます。

一年中快適な着心地「ヴァリエ / エコスィス²・ベーシック」

当社PBの「ヴァリエ」では、1998年からシャツの主力素材として「エコシス」を採用しています。夏物は28度のオフィスで涼しく、冬物は20度で暖かく過ごせるように開発された省エネ企画商品。通期でご利用いただけるブランドとして、シーズンごとにトレンドのカラーでご用意しています。

1ソフィスタはクラレの登録商標です。 2エコシスは日清紡の登録商標です。



紳士服売場では、シャツや軽量スーツなど、環境にやさしく快適に仕事ができる機能的なビジネスウェアの品揃えに努めています。



「ヴァリエ / エコスィス・ベーシック」

環境活動の発想の原点は お客さまと接する売場にあります

人と環境にやさしいショッピングを工夫

商品だけでなく、お客さまに商品とサービスをご提供する売場そのものに、環境のための配慮をしていきたいと当社は考えています。例えばお中元・お歳暮のギフトセンターはその一例です。商品から接客サービス、売場環境にいたるまで、すべてに環境保全の眼差しを向けて、人と環境にやさしいショッピングのあり方を工夫しています。

お客さまへのサービス向上が紙使用量の削減に

2000年の夏にスタートした新ギフトシステムでは、ご注文内容や配送情報はすべてコンピューターのデータベースとして一元管理。お客さまご自身にギフトセンターで記入していただくかなければならない注文伝票はなくなり、カウンターでお申し込みにかかる時間も短縮されました。また、ラッピングセンターや配送センターとも情報を共有しているため、作業内容を伝達するための大量の帳票が不要となり、紙使用量の大幅削減が進みました。2001年夏には、さらにそごうとの配送システム乗り入れを実施し、配送ルートやエリアの重複を整理・統合。運行車両数の抑制につなげました。

人と環境にやさしいギフトの贈り方を提案

健康や安全性に配慮されたすぐれた品質のギフトを贈りたい。そんなお客さまの声を反映し、ギフトセンターでは先にご紹介したOAOをはじめ、JAS認定の有機素材からつくられた食品など、人のからだと環境にやさしいギフトの品揃えに力を入れています。ギフトパッケージについても、ダイオキシン発生の心配がない材質のものを積極的に採用。また、適正包装のおすすめや、ギフト用大型エコロジーバッグの販売を通じて、お持ち帰りギフトの推進を行っています。

見やすく環境にやさしい各種ご案内ツール

見やすく選びやすい売場づくりのために、サインポールやサービス案内パネルなど、各種のツールが売場では使われています。それらの材質にも再生紙や再生PET素材など、リサイクル素材やリサイクル可能な素材を積極的に活用しています。また、商品を陳列する什器にも、例えばOAOを陳列しているテーブルにはMDF(廃棄資源である木くずを活用した集積材)を使用するなど、取り組みを行っています。



お客さまのご注文内容が打ち出される伝票も3枚複写から1枚に変わり、サイズも縮小。全社的なシステム刷新によって紙の消費削減は格段に前進しました。



さまざまなサービスをご案内するパネルやサイン。製作時には素材のチェックが不可欠です。



有機栽培原料を使ったコーヒーや素麺などは中元ギフトの人気商品。



お持ち帰り用の大型エコバッグ。贈り先へお持ちするときにも便利。

Topics

これからも、 おいしくて環境にやさしい商品を

中谷 真実様 (池袋西武・ギフトセンターにおみえのお客さま)

私自身がもらってうれしいものを考えながら、おいしくて体にいいものを選ぶようになっています。とくに年配の方々は有機食品などにも敏感で、喜んでいただけるので、こちらも注意して探すようになっています。西武の売場は分かりやすくいいですね。今回、ギフトセンターでどんな環境活動をしているかを書いたパネルを見ました。今後がんばって続けてください。



企業や自治体の環境ニーズに ネットワークとコンサルティングでお応えします

循環型社会への転換をお手伝いする 外商事業部の環境ビジネス

「容器包装リサイクル法」、「食品リサイクル法」、「グリーン購入法」など、環境関連の法律が続々と施行され、企業や自治体の環境への取り組みが活発化しています。当社の外商事業部は、自社で培ってきた経験やノウハウを生かし、企業や自治体の環境ニーズにお応えしています。2001年3月には上記の法律に関連したお客さまのご要望の拡大に応えるため、新たなビジネスモデルのもとで「包材・資材」、「商業施設向けの環境機器」、「学校・自治体向けの製品・サービス」の3分野に特化したプロジェクトもスタートさせました。

「包材・資材」プロジェクト

容器包装リサイクル法の完全施行を目前に控えた2000年は、各企業で容器・包材の素材見直しが積極的に展開された年でした。例えばメーカーでは、塩ビ素材を商品パッケージに使用することを止め、再生紙のボックスに切り替えて、消費者のダイオキシンに対する不安の払拭につとめたり、小売業でもマイバッグ運動を呼びかける企業が増えるなど、さまざまな動きがありました。このプロジェクトでは、環境保全の視点と当社の包材・資材のノウハウを融合させ、今後さらに拡大する環境負荷の少ない包材・資材へのニーズにお応えしていきます。

「商業施設向けの環境機器」プロジェクト

このプロジェクトでは、生ごみ処理機をはじめとする各種環境機器の導入を、単なるハード面だけでなく循環的なシステムとしてご提案します。また、都市部の気温上昇や二酸化炭素量の削減を図るため、新たな建築物に対して緑化の義務を課した東京都の条例などについても対応しました。その一例がビルの屋上や壁面を緑化するユニットシステムで、条例への対応を検討しているお客さまのお手伝いをします。

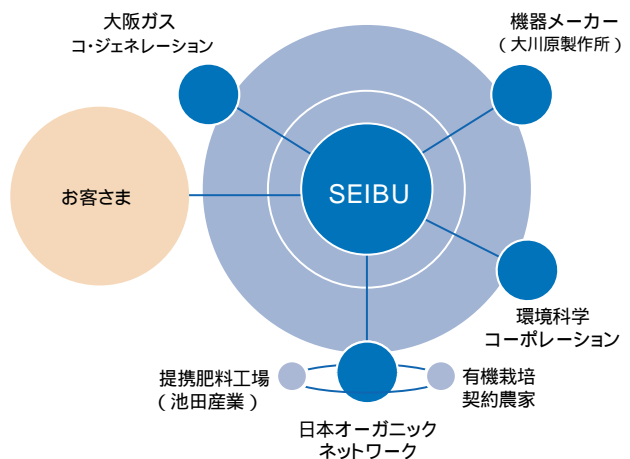
「学校・自治体向けの製品・サービス」プロジェクト

学校や自治体を対象に、環境機器や環境配慮商材をご提案していくためのプロジェクトです。例えば、学校給食から出る生ごみを処理する環境機器をはじめとして、グリーン購入法にのっとりて購買を行おうとしている各地域自治体の皆さまに、使いやすく環境にやさしい事務所の備品、ユニフォームなどを開発・ご提供していきます。

独自のビジネスモデルが循環型社会を促進します

以上3つのプロジェクトは、いずれもお客さまやメーカー、リサイクル団体などを有機的につなぎ、その結節点の働きを当社が行うというビジネスモデルに基づいています。日本マクドナルドに導入いただいた生ごみ処理機 コ・ジェネの排熱を利用した小型真空乾燥機 もその一例です。大阪ガスとのパートナーシップのもと、コ・ジェネレーションの仕組みを取り入れ、機器の生産は大川原製作所が担当。稼動開始後、乾燥処理された生ごみは、日本オーガニックネットワークへ送られ、肥料として再生されて有機農家へ出荷されます。こうした循環型システムのご提供に今後さらに努め、環境保全に役立つビジネスに力を注いでいく方針です。

食品リサイクル法へ対応を図るためのビジネスモデル例



大阪ガスの本社ビルに導入された生ごみ用真空乾燥機。ガスエンジンの燃焼によって電気をつくるコ・ジェネレーションシステムの排熱水を、乾燥の熱源として利用するシステムです。

外商事業部7つの環境ビジネス領域と事例

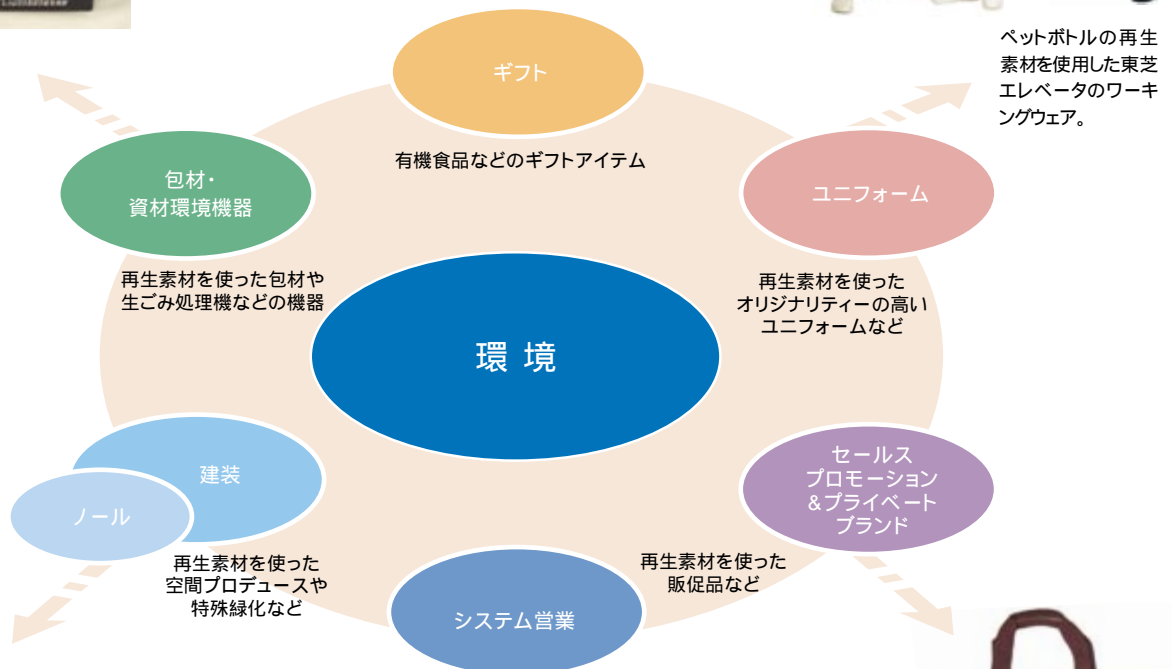


日本リーバ向けシャンプー・
リンスのセット箱は、リサイ
ルできるダンボール素材。



再生素材を使用した八
王子市役所のワーク
ンウェアは、グリーン購
入法にも適合。

ペットボトルの再生
素材を使用した東芝
エレベータのワーク
ンウェア。



ソニー・メディアージュ・ア
トリウム室内壁面緑化。
法規制による義務化な
ど、緑化は今後需要が
見込まれる分野です。



カタログハウスのリサイクル
ショップ「温故知品館」。
お店のコンセプトに合わせ
て、リサイクル材・リユース
材を使用しました。



リトルマーメイドで採用い
ただいた繰り返し利用で
きるエコバッグ。

総務庁統計局で採用い
ただいた再生素材による
エコうちわ。環境にやさ
しいアイテムのご提案も大
切です。

*文中のお取引先様の社名は、敬称を略させていただきます。

すべてのお客さまにとって 安心・安全なショッピングの場であるために

出店地域へごみの負担をかけない 店舗運営を目指しています

当社は、地域社会との共生を目指す企業として、地域の方々や自治体に廃棄物などの負担をおかけしないように、各店でごみの減量・リサイクルに力を入れています。

エコステーションを設けた東戸塚西武

1999年10月にオーロラシティーの核テナントとして開店した東戸塚西武では、オーロラモールの管理会社であるミレニアム企画とともに環境問題に取り組んでいます。オーロラモールには廃棄物処理専用施設「エコステーション」が設置され、館内から発生する1日約2トンのごみを14分類。8種類の機器によって生ごみのコンポスト、発泡スチロールの溶融、缶や紙類の圧縮など、リサイクル化と減容・減量化を行っています。

西武百貨店関連会社。国際水準の広域型ショッピングセンターの開発・運営を行っている。

ショッピングセンターぐるみで活動する岡崎西武

2000年9月にイオン岡崎ショッピングセンターに開店した岡崎西武でも、生ごみ処理機や発泡スチロール溶融機などを利用したごみの減量化・再資源化を進めています。

既存店にも生ごみ処理機の導入を開始

2001年5月から施行された「食品リサイクル法」により、企業の排出する生ごみの減量またはリサイクルを2006年度までに20%に向上させることが義務づけられました。これに対応するため、まず2001年10月、池袋西武に生ごみ処理機を導入します。今後も検証を重ねながら台数を増やし、さらなるリサイクル率の向上を図っていきます。

外気冷房の導入により エネルギー消費の抑制に努めます

明るく快適なショッピング環境を提供しながら、そのためのエネルギー消費をいかに抑えるか。限りある地球資源を大切に、二酸化炭素の排出を抑制するために、これは重要な課題です。池袋西武では1998年から外気冷房装置を導入し、気温に応じて外気の取り込みによる館内冷房へ切り替える仕組みをとっています。電気で冷やした冷水を用いる冷房と比べて、1日当たり約3500KWhの電力が節減できます。



岡崎西武では、ショッピングセンターの運営体であるイオングループと協力して環境活動を進めています。生ごみ処理機もその一環です。



エコステーションを地域の環境教育に役立てようとの試みが実を結び、2001年6月17日に開催されたオーロラモール館長による「エコステーション・父と子の見学会」には、5組の親子が参加されました。



東戸塚西武のエコステーションに設置されたクリーンヒートパッカーで、発泡スチロールを溶かして固め、再生工場へ。ポリスチレン原料として、ビデオカセットなどに生まれ変わります。



全店の生ごみ総量の18%を排出する池袋西武からまずリサイクルをスタート。できあがったコンポストは農家に送られ、肥料として使われます。



外気20度を目安に、コントロールセンターのコンピュータにより稼働を開始します。

あらゆるお客さまが快適に ショッピングできる店内環境

ノーマライゼーションの理念のもと、社会全体のバリアフリー化に対応し、あらゆるお客さまに安心かつ安全にお買い物をしていただける百貨店づくりを進めています。

ハートビル法に準拠したバリアフリーの店舗設計

東戸塚西武や岡崎西武では、高齢者や身体障害者の方でも利用しやすい建築物について定められた法律「ハートビル法」に基づいた設計を、出店計画の当初から行ってきました。例えば、車椅子の方でも思うように店内を動きまわられる段差のないフロアや出入り口、簡単にエレベーターの操作ができる低位置運転盤や点字付き運転盤、また店舗入口には介助者呼び出し用のインターホンなど。また、ベビーカーごと入れるコンパートメント付きトイレや目の不自由な方のために点字ブロックなども設置し、快適にお買い物できる店内環境を整えています。

ハートフルアドバイザーがお買物をサポート

建物・設備の質的向上と同時に、高齢者や身体障害者の方に対して適切にお買物をサポートできる人材の育成に取り組んでいます。それが2001年度からスタートした「ハートフルアドバイザー」の資格認定制度です。商品選びやご試着など、お買物を十分に楽しんでいただけるための介助の技術を学んでいます。第1回の審査は2001年6月に行われ40名が認定されました。2001年度中にはさらに3回の審査機会を設け、計150名が認定の取得に挑戦する予定になっています。

店舗の外にも 環境美化の輪を広げます

毎月1回、各店舗で「外周清掃デー」を定め、周辺地域の清掃活動を行っています。地域社会の一員として、お客さまが気持ちよくお買い物できる街づくりに貢献しようと、全社員が活動しています。なかには有楽町西武のように、近隣の百貨店・商店街と協力体制をとり、地域ぐるみの清掃活動へと発展した事例もあります。2000年8月7日からはじまったこの取り組みは、「有楽町駅前クリーンデー」として、毎月1回、総勢60名ほどが参加して継続的に行われています。



岡崎西武の車椅子のお客さま専用の駐車場は、売場にアクセスしやすいように建物入口に近いエリアに設置されています。



池袋西武の地階入口「クラブ・オンゲート」。2001年3月の新装時に、ベビーカーや車椅子でもアプローチできるスロープを設置。



東戸塚西武の売場。フロアから段差をなくし、車椅子やベビーカーが安心して移動できます。



ハートフルアドバイザーは財団法人総合健康推進財団主催による資格で、接客販売に特化したカリキュラムも組み込んだ実践的な研修を行っています。



当社が1999年4月9日にISO14001規格認証を取得したことから、4月9日は「西武百貨店の環境記念日」として全店一斉の「外周清掃デー」となっています。(写真は天津西武)

私たちの環境活動における最強のサポーター それは、お客さまです

お客さまの環境意識に支えられ 適正包装が順調に進んでいます

当社では、売場の社員一人ひとりが包装紙と紙の手付袋を使用した完全包装から、ポリ手付袋による簡便な適正包装への移行に取り組んでいます。適正包装による2000年度の紙資源削減効果は27トンで、これは樹木(直径14センチ・高さ8メートル相当)600本にあたります。最近ではお客さまのご理解も深まり、多くの方からご協力をいただいています。今後も一方的な押しつけにならないように、お客さまにアンケートを実施するなど、お客さまの声をサービスに反映させる試みを続けながら、適正包装のおすすめに努めていきます。

こどもたちと未来の森をつくります 「どんぐりを育てようキャンペーン」

こどもたちに環境保全の大切さを知ってもらうことも、環境活動の一つです。池袋西武が1998年から継続して行っている「こどもと育てる未来の森 クマちゃんのどんぐりを育てようキャンペーン」は、こどもたちにどんぐりの実から苗を育ててもらふもの。育てられた苗木は、自然保護と回復のために活動している作家たちのボランティア団体に送られ、どんぐりの森をつくるための植林に役立てられます。

お客さまの手による ごみの分別とリサイクル

全店舗に1998年から設置がはじまったお客さま向け3分別ごみボックスは今やすっかり定着し、適切にご利用いただいています。また、容器回収についても、例えば2001年4月から、ほんきん西武がトレー回収ボックスを食品売場のレジ近くに新設。6月には発泡スチロール溶融機を導入し、回収したトレーをビデオカセットなどの原料に資源化できるようになりました。ボックス設置以前も同店の約5人に1人のお客さまは、お買い求めになった商品のトレーをごみ箱に捨ててからお持ち帰りになっていたことが判明しています。ごみになるトレーは持ち帰らないというお客さまの姿勢に、リサイクルと快適なショッピングの両立に近づくヒントをいただきました。



売場では「簡易包装マニュアル」に基づき、お買い上げ品の用途を確認しながら、商品に応じた包装を行っています。



西武百貨店の人気者「おかいものクマ」が店頭でどんぐりとその育て方がわかるパンフレットを配ります。

ご家庭で40～50センチ程度に育てられた苗木。2001年秋に最初の植樹が行われる予定です。



お客さま用3分別ごみボックス。「新聞・雑誌」「カン・ビン・ボトル」「その他」の3つに分類。



食品トレ - の回収・リサイクルに取り組みほんきん西武。

容器回収を行っている店舗

池袋西武	ペットボトル	高槻西武	牛乳パック・ペットボトル・トレー
シヤ西武	ペットボトル	八尾西武	牛乳パック・ペットボトル・トレー
船橋西武	牛乳パック・ペットボトル・トレー	つかしん西武	牛乳パック
岡崎西武	牛乳パック・ペットボトル・トレー・アルミ缶	だるまや西武	牛乳パック・トレー
		ほんきん西武	トレー

環境教育の実施状況と環境関連法規の遵守

全従業員を対象とした環境教育

西武百貨店の社員一人ひとりが自らの役割を自覚して活動できるように、全社をあげて継続的な環境教育を行っています。環境問題への理解と納得が社員に浸透していくことは、環境活動の前進に他なりません。

入店時研修

西武百貨店で勤務するすべての従業員を対象とした入店時研修では、「環境問題への取り組み」が必須項目です。

環境デーの設定

店舗ごとに毎週1回「環境デー」を設け、月間テーマに基づいた重点活動の徹底を行います。月間テーマは本部・環境推進室による全店共通テーマと、各店与件に応じた店別テーマの2つがあります。

「環境月間」「環境にやさしい買い物キャンペーン」

毎年6月の環境月間と、10月に行政を中心に開催される「環境にやさしい買い物キャンペーン」や「買い物袋ご持参運動」への対応として、「適正包装のおすすめ」に関する社員啓発を強化しています。また、お客さまに対しても、店内放送やPOPを活用して店頭で広くお知らせしています。

層別環境教育

毎年秋には、店長をはじめ、社員それぞれの職層や役割に応じた層別環境教育を実施しています。教育活動後は、「自覚の確認アンケート」で自分の役割に対する認識を深めます。

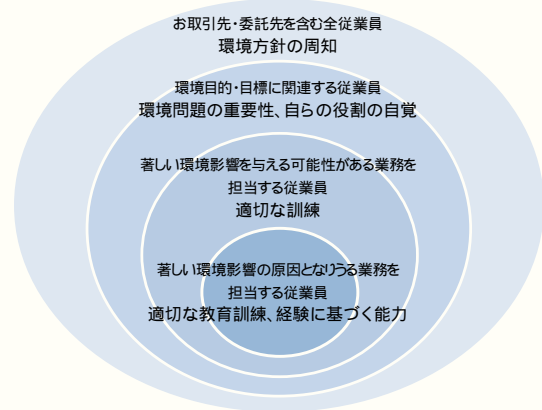
内部環境監査員の養成

環境マネジメントシステムの運用状況を自らチェックするため、内部環境監査を実施しています。内部環境監査員の資格は、当社規程に基づいた養成研修に参加し、修了テストに合格すると認定されます。ひとたび内部環境監査員に認定されても、年に1度スキルアップ研修があります。内部環境監査員は2000年度末で76名です。内部環境監査員による点検は、7月と11月に自店の活動をチェックする「環境定期点検」と、1～2月に店舗間で相互に監査を行う「内部環境監査」の計3回です。

専門教育

環境に著しい影響を与える可能性がある業務や著しい環境影響の原因となりうる業務を担当する従業員には、専門教育を実施しています。対象者は、PCB・フロンなど環境有害物質

社員に対する環境教育の考え方



を扱う従業員、廃棄物処理を行う従業員、自家発電設備およびボイラーの運転を行う従業員で、新規入店者はその都度、既存社員も年に2回の教育・訓練の受講を義務づけています。

緊急事態への対応

当社では、「自家発電機の重油・ガス漏洩」・「PCB使用管理」・「フロンの運用」・「水質汚濁」・「ばい煙発生施設」・「防災に関わる運用」の6項目を緊急事態として特定しています。6項目については、緊急事態の発生を想定して対応手順をマニュアル化。年に1回、手順の有効性を実証的に確認し、必要に応じた見直しや改訂を実施しています。

環境に関する規制遵守の状況

循環型社会の形成に向けて整備が進められている環境関連法規、条例などに対して、当社はその猶予期間の有無に関わらず、迅速に対応することを原則としています。

「資源有効利用促進法」(2001.4月施行)への対応

紙製およびプラスチック製の各種容器・包材について、新たに識別マーク表示が義務づけられたことに対応し、新規製作される包装紙・手付袋にはただちに識別マークを記載し、3月末から順次店頭での使用が始まりました。

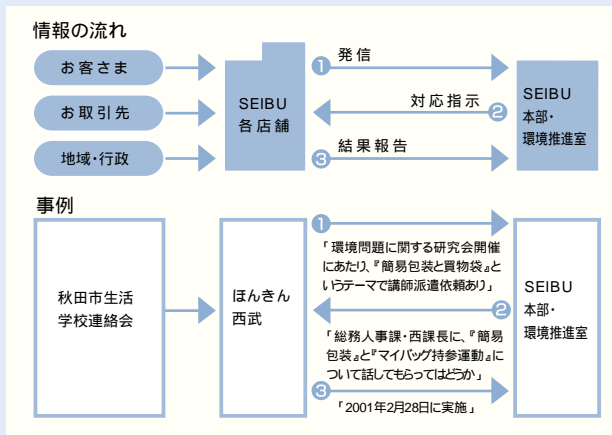
「食品リサイクル法」(2001.5月施行)への対応

新規オープンの店舗(東戸塚西武・岡崎西武)のみならず、既存店舗への生ごみ処理機導入を計画し、準備を進めています。2001年秋には、全店でもっとも多く生ごみを排出する池袋西武(3.5t/日)に機器の導入がスタートします。

環境コミュニケーション

当社は、環境活動に関する情報をお客さま・お取引先・行政をはじめとする皆さまに広く開示するとともに、情報の収集に努め、活動の輪を広げていくことを心がけています。

環境マネジメントシステムにもとづく情報の伝達・管理
 当社では、「環境情報通知書/対応書」という書式を作成し、社外および社内の環境に関する情報を確実に収集・伝達・管理できるように努めています。2000年度は、行政からのアンケートなどを中心に全サイトで計31件の情報が集まりました。



環境活動報告書

2000年9月、環境活動報告書第1号を発行。ISO14001 認証登録にいたるまでの活動歴、取得後の活動成果など、見やすくわかりやすい表現を心がけました。百貨店業界初の試みとして環境会計情報も掲載。

インターネット

西武百貨店ホームページでは、環境活動報告書をはじめ、最新の活動状況をお知らせしています。閲覧いただいた学生や企業の環境担当の方から、問い合わせやご要望もいただいています。

地域とともに取り組む環境活動

各店舗で、地域に根ざした活動の輪を広げています。

しずおかエコチケット

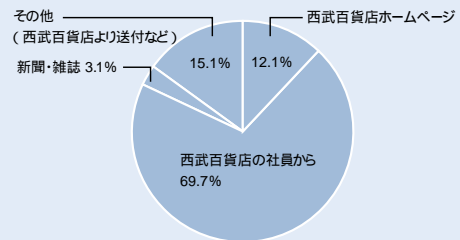
静岡市消費者協会による買物袋持参運動「しずおかエコチケット」に、静岡西武は2000年10月から協力店として参加。

沼津市と共催で「エコライフ・フェア2000」開催

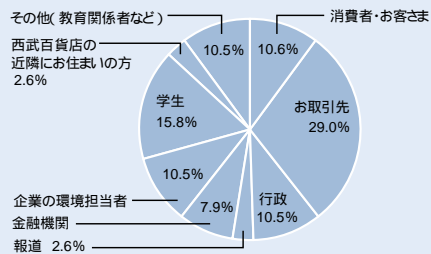
沼津西武内の特設会場で、沼津市生活環境部ISO推進室と共同の「エコライフ・フェア2000」を実施。沼津市と当社の環境の取り組みを紹介しました。

「環境活動報告書2000」(2000年9月発行)に関するアンケート結果

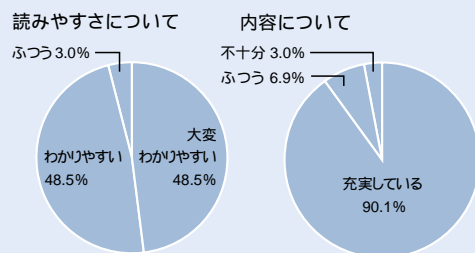
Q1「環境活動報告書」をどのようにお知りになりましたか？



Q2「環境活動報告書」をどのようなお立場でお読みになりましたか？



Q3 本誌についてお答えください



興味をもたれた項目

「環境方針に基づく14の取り組み」「社員一人ひとりの意識づくり・教育活動」「循環型社会に向けた新しい店づくり」など

Q4 今後、どのようなことを期待されますか

「ISO14001を取得していることをもっともっと誇れるような取り組みが行われますように! またエコロジー商品が増えるといいと思います」(大学生・女性)

「各種リサイクル法の成立などにより、循環型社会の構築に向けて小売業の果たす役割は大きくなると思います。貴社の活動を通じ、リサイクルの環が広がり、強固なものに育っていくことを期待します」(金融機関・男性)

「貴社の社員だけでなく、店舗のある地域の皆さまに対して、貴社が取り組んでおられる環境活動を通して環境問題の普及啓発を行われることを期待しております」(行政関連機関・男性)など

皆さまからいただいたご意見は、「環境活動報告書2001」発行に際して参考にさせていただきました。ご協力ありがとうございました。

1998-2000年度 環境活動の成果と目標達成度

2000年度は、14項目の環境目標において12項目が目標値を達成。「リサイクル率の向上」と「業務用出入り車両の削減」が未達成の課題として残りました。

「リサイクル率の向上」については、地域の廃棄物対策の状況により、紙ごみ・生ごみ・ビン・缶の扱いに店舗間で跛行性が

生じるため、処理機器の導入などを自社で行うとともに、自治体・お取引業者との調整を図り、向上に努めていきます。また、業務用出入り車両数については、納品代行のさらなる利用促進、営業時間外納品の実施による車両集約化、食品納品代行のエリア拡大などに取り組んでいきます。

注)1997年度実績:浜松・大宮・志摩含む。99年度実績:だるまや新館・東戸塚含む。2000年度実績:岡崎含む。

環境目的・目標			97年度	98年度	99年度	2000年度			97年度比
						目標達成度: 達成、×未達成、()内は目標差			
【単位】			実績値	実績値	実績値	実績値	目標値	目標達成度	
廃棄物の削減およびリサイクルの促進	1	廃棄物総量 [t]	27,866	24,944	23,754	23,130	23,255	(-125t)	83%
	2	リサイクル率 [%]	21	29	34	39	40	×(-1%)	185%
	3	統一ハンガーの利用率 [%]	6	9	19	30	25	(+5%)	500%
省資源・省エネルギー	4	紙類使用量							
		コピー・伝票・帳票 [t]	478	396	304	155	262	(-107t)	32%
		手付袋・包装紙 [t]	625	535	430	403	421	(-18t)	65%
		合計 [t]	1,103	931	734	558	683	(-125t)	51%
	5	電力使用量 [MWh]	303,899	289,165	284,206	292,243	294,686	(-2,443MWh)	96%
	6	重油使用量 [kℓ]	2,731	2,207	2,006	1,965	1,974	(-9kℓ)	72%
	7	水道水使用量 [km ³]	3,437	3,139	2,960	2,694	2,857	(-163km ³)	78%
業務用出入り車両の削減	8	出入り車両(業務用)数 [台]	3,646	3,231	2,900	2,812	2,550	×(+262台)	77%
環境に配慮した商品の取り扱い拡大	9	選定基準商品の品揃え [品目]	0	62	134	212	200	(+12品目)	
	10	外商事業部の環境商材取り扱い高 [億円]	15	23	28	42	40	(+2億円)	280%
その他	11	廃材品のリサイクル	店舗リフレッシュおよびリニュー - アル時に環境に配慮したお取引先との取り組みを実施 (岡崎西武開店にて、廃材品の分別とリサイクルの促進)						
	12	防災訓練の参加率 [%]	60	80	85	110	100	(+10%)	183%
	13	環境に配慮した素材の点検	古紙配合率・非木材紙の使用率拡大および環境ホルモンの関連商品・消耗品の削減 (手付袋の古紙配合率を30%・40%へ、運物袋を非木材紙(ケナフ)に切替。塩ビ・ラップフィルムを非塩素系素材へ、社員証・社員/バッチ、プライスカード入れなどを再生PET素材に切替。)						
14	特定フロン使用機器	館内冷房機器 [台]	20	17	16	15	15	(±0台)	75%
		食品用冷凍・冷蔵機器 [台]	1,771	1,531	1,474	1,481	1,577	(-96台)	84%

2000年度 環境会計

環境会計の考え方

環境対応の投資・経費とその効果を明確にし、経営指標の一つとする。

環境保全活動に伴う効果については、エネルギー・廃棄物など項目別の削減量をCO₂排出量に換算し、記述情報とともに「わかりやすい環境会計」とする。

対象範囲

2000年3月1日～2001年2月28日(財務会計期間と同一)

環境マネジメントシステムの対象となる全事業所の集計

定義と算出基準

投資および経費のなかで、環境保全に関わるものを環境保全コストとする。

環境保全活動に関わるコストから生じる、前年からの改善値を環境保全効果とし、エネルギー使用料など経費に表われる効果を貨幣単位で表し、実際の削減量およびCO₂排出量換算を物量単位とする。

[参考資料] 平成13年3月 環境省発行

「環境会計ガイドブック 第4章・流通ワーキンググループ報告」

()内は99年度実績 単位:百万円

分類	主な環境保全活動	環境保全コスト		環境保全効果	
		投資	経費	貨幣単位	物量単位
事業エリア内 ・公害防止 ・地球環境保全 ・資源循環	設備対策 外気冷房システムなどの省エネ機器導入 節水コマ・トイレ擬音装置の導入 廃棄物対策 適正な廃棄物処理 物流対策 リターナブルコンテナ・ハンガーによる納品 百貨店統一ハンガーの使用 納品代行システム	266 (725)	1,279 (1,303)	46 (51)	CO ₂ 排出量換算 ごみ総量 624t 150t (1,190t) (286t) 4t車 156台分 (298台分)
	ISOに基づく環境活動 適正包装 リサイクルボックス・分別ごみ箱による分別の徹底 両面コピーなどコピー使用管理の徹底 エレベーターの使用を控え、階段の「2up 3down運動」 蛍光灯用節電プレートを活用したこまめな消灯 値札バーコードを利用したスキャン検品	0 (0)	0 (0)	480 (533)	コピー・伝票類 149t 48t (92t) (29t) 直径14cm×高さ8m樹木 3,311本分 (2,044本分)
上流・下流 ・グリーン購入 ・リサイクル/再商品化 ・環境保全対応の 製品販売	プライスカード入れや女性社員用制服に再生PET素材を使用 ポスターに再生紙を使用 食品トレイ・ペットボトル・牛乳パックなどの容器回収 容器包装リサイクル法対応 環境ビジネス(環境機器の販売) 有機食品やエコバッグの販売	0 (0)	311 (195)	598 (418)	包装紙・紙類 27t 9t (105t) (34t) 直径14cm×高さ8m樹木 600本分 (2,333本分)
					電力使用量 営業拡大・新規出店分を除く 5,999MWh 546t (4,959MWh) (451t) 一般家庭 1,724世帯分/年 (1,425世帯分/年)
管理活動 ・環境教育 ・環境マネジメント システムの運用	入店時研修・層別環境教育などの環境教育 週1回「環境デー」を設定し、環境問題への取り組みを徹底 社内研修制度に基づく内部環境監査員の養成・スキルアップ 「ISO14001」に基づく環境マネジメントシステムの運用と改善	0 (0)	48 (113)	0 (6)	水道水使用量 営業拡大・新規出店分を除く 277km ³ 43t (179km ³) (28t) 50mプール 111個分 (72個分)
研究開発 ・環境保全対応の 製品開発	エコバッグの開発	0 (0)	0.1 (0)	0 (0)	重油使用量 営業拡大・新規出店分を除く 78kℓ 57t (201kℓ) (148t)
社会活動 ・環境改善対策 ・地域の環境活動支援 ・環境情報の公表 ・環境広告	「クマちゃんのどんくろを育てよう」キャンペーン 毎月1回社員たちによる周辺地域の清掃を実施 環境庁主催「エコライフフェア」「地域環境フェア」への出展 環境活動報告書の発行 簡易包装ポスターの製作	0 (0)	17 (31)	0 (0)	業務用出入り車両数 32千台 227t (120千台) (826t) 353kg ガリオン使用量削減 (1,284kg ガリオン使用量削減)
環境損傷	-	0 (0)	0 (0)	0 (0)	
合計		266 (725)	1,656 (1,642)	1,124 (1,008)	1,080t (1,802t)

環境を守るための14の取り組み

1998-2000年度 活動内容と成果

1 廃棄物の削減

取り組みのねらい

廃棄物の発生を抑制するために業務の見直しを行い、資源の効果的な利用、循環型社会の構築に寄与すること。

主な取り組み手法

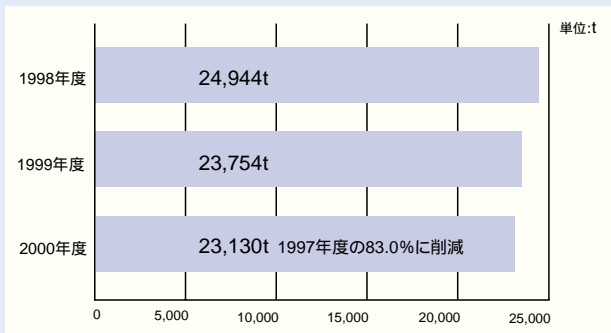
衣料品をハンガーにかけたまま輸送する「ハンガー納品」や、繰り返し使える箱で納品する「通い箱」の活用により、ダンボール箱の使用を削減して、資源の保護と廃棄物を抑制。

ごみ計量器を導入し、廃棄物量を管理。2000年度末で6店舗(池袋西武、シブヤ西武、船橋西武、東戸塚西武、静岡西武、岡崎西武)および本部に導入済み。順次導入を拡大。

社員意識の啓発

- ・社員用ごみ箱を削減。リサイクル拠点に分別ボックスを設置。
- ・社員食堂で食べ残し抑制の呼びかけ。
- ・休日の行楽先からのごみ持ち帰り運動。

3年間の実績推移



2 リサイクル率の向上

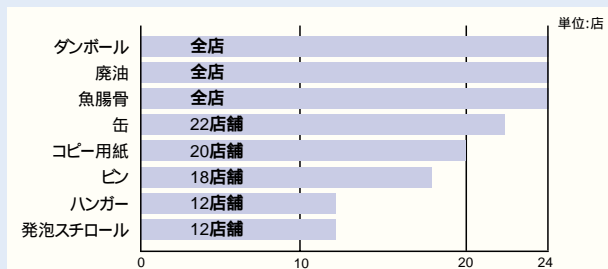
取り組みのねらい

「ごみから資源へ」の視点で、従来ごみとして処理してきたものを資源として見直し、リサイクルするための仕組みを整備し、廃棄物削減を促進すること。

主な取り組み手法

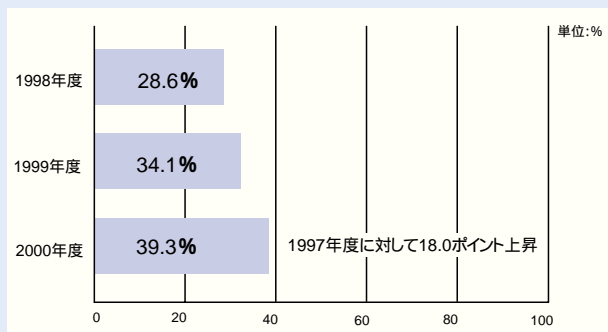
生ごみ処理機・発泡スチロール溶融機をはじめとする各種環境機器により、施設内でリサイクル処理を実施。新店(東戸塚西武・岡崎西武)に加え、2001年度からは池袋西武・ほんきん西武などの既存店でも導入を開始。

店舗でのリサイクルの実施状況(24店舗中)



3年間の実績推移

リサイクル率(廃棄物総量中、リサイクル処理されたものの比率)



3 統一ハンガーの利用率向上

取り組みのねらい

「百貨店統一ハンガー」の利用に積極的に取り組み、再利用(リユース)・リサイクルを促進すること。

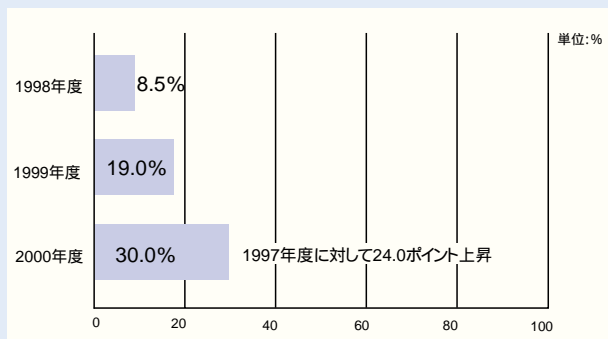
百貨店統一ハンガー: 日本百貨店協会、日本アパレル産業協会などが推進しているハンガーの再利用システム。メーカー出荷時点から輸送、店頭陳列・販売までを1本のハンガーで行い、使用後は回収して洗浄・再利用または生プラスチック原料にリサイクルするもの。

主な取り組み手法

専用回収ボックスを設置し、分別回収を徹底。

3年間の実績推移

百貨店統一ハンガー利用率



4 紙類使用量の削減

コピー用紙、伝票・帳票

取り組みのねらい

情報技術などの活用により、環境に負担をかけない仕事の仕組みを考えることで、資源の保護と廃棄物の削減に努めること。

主な取り組み手法

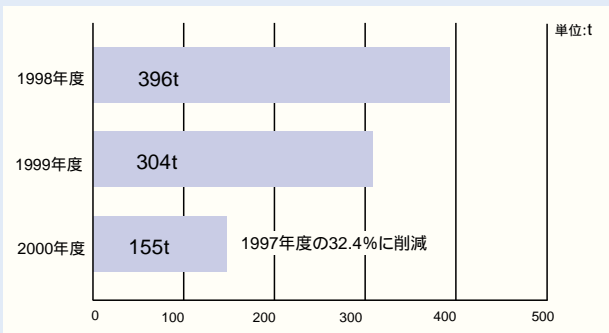
コピー用紙は両面使用を原則とし、会議資料もパソコンや書画カメラの活用により、配布枚数を削減。

棚卸において、値札バーコードスキャンによる読み取りとコンピューターの自動集計システムにより、伝票類の使用量を大幅に削減。スキャン導入率は商品点数ベースで1999年度の62.1%から2000年度は97.9%に拡大。

2000年中元より新ギフトシステムを導入し、商品・包装・配送の情報を店頭、包装センター、配送センターとオンラインで共有化。7枚複写だった伝票を1枚に削減。

3年間の実績推移

コピー用紙、伝票・帳票使用量



手付袋・包装紙

取り組みのねらい

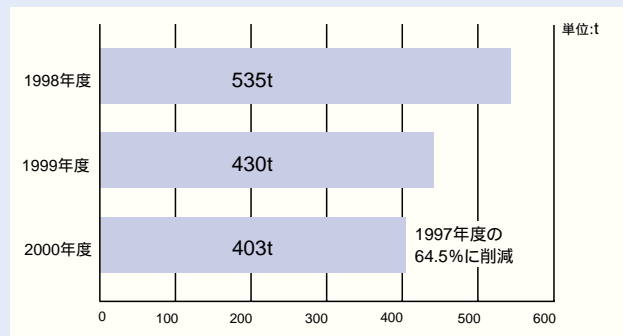
お客さまのご希望に沿った適正な包装を実施することにより、過剰包装を排除し、資源の保護と廃棄物の削減に努めること。

主な取り組み手法

各レジに「簡易包装推進マニュアル」を装備し、お客さまのご要望により適正包装を実施。包装紙と紙製の手付袋を使用した「完全包装」から、ポリ手付袋を使用した「適正包装」への移行を推進。

3年間の実績推移

手付袋・包装紙使用量



5 電力使用量の削減

取り組みのねらい

限りあるエネルギー資源の消費を抑え、地球温暖化の原因である二酸化炭素の排出を減らすため、電力需要の低減を行うこと。

主な取り組み手法

節電プレートの活用

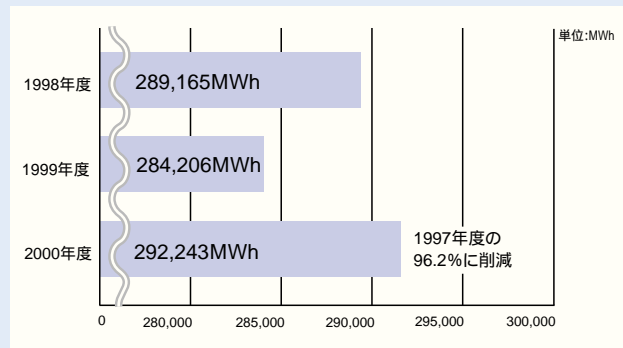
・事務所や倉庫、社員用通路などの蛍光灯を個別スイッチにし、こまめな消灯を徹底。(社員がデザインした責任者名入り節電プレートをスイッチごとにとりつけ)

階段利用促進

・「2up3down運動」(上るときは2階分、下がるときは3階分なら階段を利用)により、エレベーター使用を抑制。

3年間の実績推移

電力使用量



新規出店(1999年10月東戸塚西武、2000年9月岡崎西武)
営業機会拡大(2000年6月「大店立地法」施行後の営業日数増・営業時間の拡大)を含む

環境を守るための14の取り組み 1998-2000年度 活動内容と成果

6 重油使用量の削減

取り組みのねらい

二酸化炭素排出量の多い重油を燃料としている機器・設備の更新にあたって、より環境負荷が少なく、エネルギー効率にすぐれた設備の導入を行い、地域の大気環境への負担を減らすこと。

主な取り組み手法

燃料の切り替え

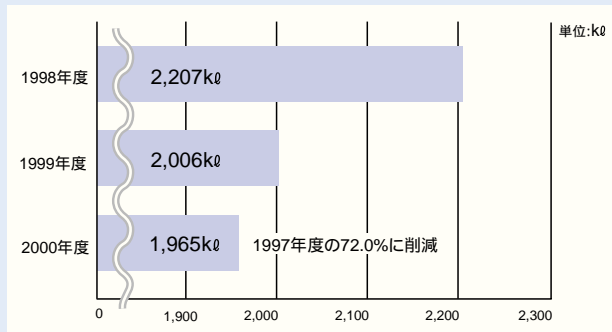
・店舗で使用しているボイラー設備の入れ替えに際して、環境負荷のより少ないガスなどを燃料とする設備へ切り替え。

管理徹底

・空調温度、運転時間などの使用基準に基づいた最小限の使用となるよう管理を徹底。

3年間の実績推移

重油使用量



7 水道水使用量の削減

取り組みのねらい

受水量を減らし、水資源を効率的に使用。また間接的には、水道供給にともなう電力エネルギーの消費抑制を図ること。

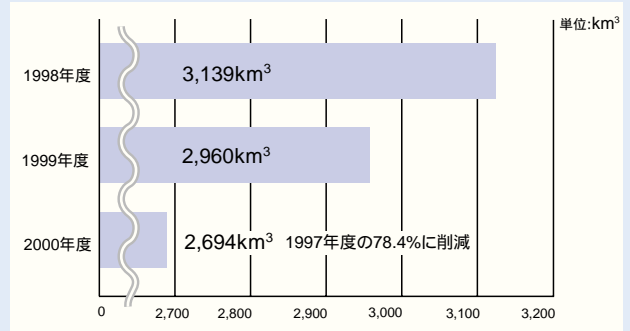
主な取り組み手法

節水呼びかけの表示により、歯みがき時の流しっ放し禁止、水の出しすぎ防止などを社員一人ひとりが注意する。

1999年度末から全事業所の社員用女子トイレに水流擬音装置を設置。

3年間の実績推移

水道水使用量



8 業務用出入り車両の削減

取り組みのねらい

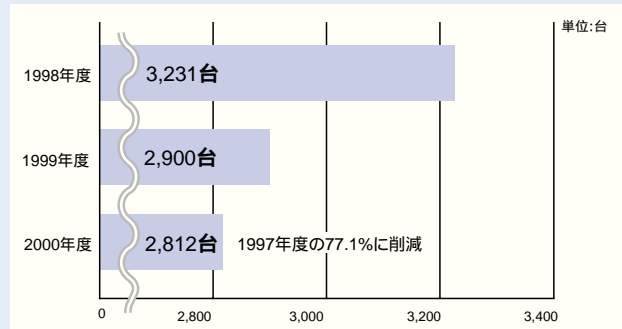
物流の仕組みを見直すことで出入り車両の削減を図り、交通混雑の緩和や車両の排気による環境汚染の軽減につなげること。

主な取り組み手法

メーカーや問屋からの個別納品ではなく、納品代行会社が商品を集荷して仕分けし、店舗への納品を行う「納品代行システム」の利用と拡大。95年8月からスタートし、利用お取引先数は99年度631社から2000年度854社。

3年間の実績推移

全店での1日あたり業務用出入り車両数



9 「選定基準商品」の品揃え拡大

取り組みのねらい

お客さまに環境負荷がより少なく「安全・安心」な商品・サービスの提供を促進すること。

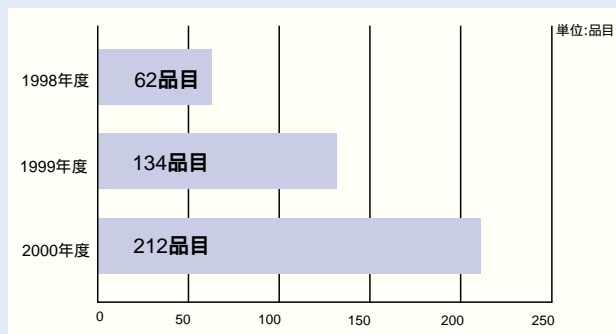
主な取り組み手法

当社独自の「環境商品」選定基準に基づき、環境への負担軽減につながる機能、素材、生産工程、表示、安全性をチェック。

商品部内に設置した環境管理委員会の審査を経て決定。

3年間の実績推移

環境商品のアイテム数



10 環境商材の拡大(外商事業部)

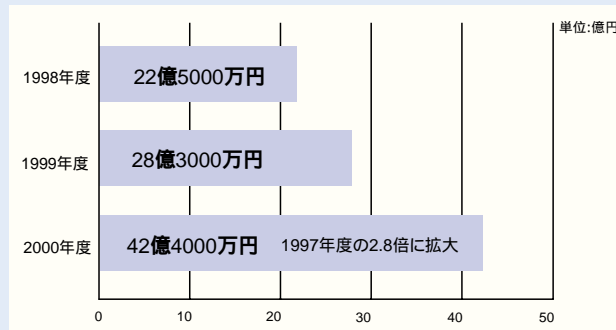
取り組みのねらい

法人・団体のお客さまを対象とする外商事業部の営業活動において、急速に高まりつつある環境ニーズに応えられる商材の開発・提案を強化すること。

主な取り組み手法

外商事業部の「7つのビジネス領域(包材・資材/環境機器、セールスプロモーション&プライベートブランド、ユニフォーム、建築、ノール、ギフト、システム営業)それぞれにおいて、環境への配慮に基づいた商材開発を行うとともに、各領域をコーディネートしてお客さまのニーズに応える環境パッケージを提案。

環境商材の取扱高



11 廃材品のリサイクル促進

取り組みのねらい

店舗・売場の改装時に発生する建築廃材物の分別・リサイク

ルを促進し、お客さまにとって居心地の良いお買い物環境を、環境負荷を増大させることなく実現すること。

主な取り組み手法

建築廃材物の分別徹底。

工事を担当するお取引先と分別の内容・方法を確認。金属板・木材・石膏ボードの分別・リサイクルを実施。

12 防災訓練参加率の拡大

取り組みのねらい

ご来店いただくお客さまの安全を守り、大気中への有害物質の排出、周辺地域の交通への悪影響を防止すること。

主な取り組み手法

毎月1回、「防災の日」を設定して防災訓練を実施。社員全員に年4回以上の訓練参加を義務づけ。

13 環境に配慮した素材の点検

取り組みのねらい

取り扱い商品、店頭の什器・備品、社員の職場での身の回り品などについて、環境に配慮した素材へ切り替え、環境への影響を軽減すること。

主な取り組み手法

店頭のパライスカード入れ、装飾品などを再生素材に切り替え。再生PET素材の社員制服を導入。(2000年度旭川西武、岡崎西武。2001年2月末時点で再生PET制服着用は15店舗)

14 フロン使用機器の削減と管理強化

取り組みのねらい

特定フロンを冷媒としている機器の使用を削減し、フロンによるオゾン層の破壊を防止すること。

主な取り組み手法

特定フロン使用の冷凍・冷蔵機器については、更新時に代替フロン使用機器へ切り替え。

管理徹底による漏洩防止。

2001年度からの新たな活動目標 6の柱と10の取り組み

2001-2003年度 中期目標と活動計画

6の柱	10の取り組み 〔単位〕		2000年度 (基準値)	2001年度	
				目標値	基準年比
循環型社会の推進	1	廃棄物削減 〔t〕	14,034	12,305	88%
	2	リサイクルの向上 〔%〕	39	44	113%
省資源	3	紙類使用量削減			
		コピー用紙 〔kg〕	172,289	154,119	89%
		手付袋・包装紙 〔kg〕	403,089	395,445	98%
		ポリ手付袋 〔kg〕	405,400	396,710	98%
4	水資源使用量削減 〔ℓ/m ² ・h〕	28.3	28.1	99%	
温暖化対策 (CO ₂ 削減)	5	電力使用量削減 〔wh/m ² ・h〕	3,047.1	3,025.7	99%
	6	重油ボイラーの見直し	重油からクリーンエネルギーへ熱源の見直し ・2002年度以降に具体的投資を旨とし、計画を策定		
	7	車両による環境負荷低減			
		業務車両削減 〔台〕	2,812	2,550	91%
	低公害車拡大 〔%〕	50	64	128%	
環境商品の拡大	8	環境に配慮した商品の拡大			
		環境選定商品拡大 〔品目〕	212	230	108%
		環境商材売上 〔億円〕	42	44	105%
リスクマネジメント	9	リスクマネジメントの強化			
		防災訓練参加率拡大〔%〕	100	100	100%
		フロン管理強化 (特定フロン使用機器削減) 〔台〕	1,481	1,468	99%
		PCB管理の徹底	現在7店舗で保管しているPCB管理の徹底 ・PCB処理計画の検討、日常管理手順の見直し		
社会貢献	10	地域社会との共生	社会貢献活動の検討 ・環境ボランティア活動の検討、地域の小学生を対象にし		

原単位.....総使用量 / (営業面積 × 延べ営業時間)

【制定日】2001年4月1日 【対象期間】2000年度の実績数値を基準に、2001年3月1日から2004年2月29日まで

2002年度		2003年度		目標達成に向けた主な取り組み計画
目標値	基準年比	目標値	基準年比	
8,867	63%	6,910	49%	計量器導入拡大による廃棄物量管理 生ごみ処理機など、各種環境機器の導入
57	146%	65	167%	リサイクルアイテムの拡大(全事業所紙ごみゼロ運動推進) リサイクル関連法案への対応
121,664	71%	87,662	51%	BPRと連動した仕事の仕組み・仕方の見直しによる 資料作成枚数削減 「紙」から「画面」へ切り替え運動
375,339	93%	333,002	83%	適正包装のご利用促進、買物袋のご利用呼びかけ お取引先と連動した商品パッケージの見直し検討 お買い上げ品のおまとめお願い
376,282	93%	355,047	88%	
27.8	98%	27.5	97%	全社員運動による節水活動の継続 雨水活用計画構築
2,995.5	98%	2,965.5	97%	屋上緑化計画提案、太陽光発電電検討 全社員運動の継続
				10店舗で熱源としている重油ボイラーについて、 環境負荷の少ないガスなどの熱源への移行を検討
2,420	86%	2,300	82%	食品領域における納品代行拡大 営業時間外納品による車両の集約化
89	178%	100	200%	社用車改善計画構築 ・リース満了による入れ換え時に、低公害車を導入
280	132%	330	156%	PB開発、お取引先と連動した環境商品開発 当社基準による環境商品の紹介
48	114%	53	126%	環境関連法規制に対応したプロジェクト活動により、 環境商材を拡販
100	100%	100	100%	全店消防計画・防災施策の確認 ・全店における活動の基準化
1,463	99%	1,458	98%	特定フロン全廃計画策定 管理状況の確認 PCB処理計画の検討 日常管理手順の見直し、再徹底
た環境教育検討、グリーンポイントの検討				環境保護団体への寄付、環境ボランティア活動推進 地域と連動した環境教育・オープンハウス

ISO14001 第2回定期審査報告

審査対象： 社長、環境管理責任者、環境推進室、シブヤ西武、
旭川西武、札幌西武、岡崎西武、沼津西武、だる
まや西武、富山西武、船橋西武、所沢西武、大津
西武、関西外商部、つかしん西武、池袋西武、外
商事業部、商品管理部(審査順)
審査日程： 2001年4月24日～27日(7.0人/日)

審査員： 財団法人日本品質保証機構(JQA)
主任審査員 中田 智・審査員 中島隆徳
審査結果： ISO14001規格に基づく環境マネジメント
システムが維持管理されていると判定
新店岡崎西武の追加登録について審査し、
その結果は適切と判定

主任審査員 所見

トップマネジメントのリーダーシップ

(株)西武百貨店では1999年4月9日にISO14001規格の認証を取得し、2000年4月に第1回定期審査、2001年4月に第2回定期審査が実施されました。マルチサイト取得になりますので、登録サイトは岡崎西武を含め34ヶ所、従業員数は1万人以上にのぼります。

どのサイトでも常に真摯な態度で日頃の成果を熱心に話していただきましたが、特に印象深かったのは、1時間半にわたる社長へのインタビューです。社長は以前から有機の野菜にこだわっておられるなど、環境に配慮した生活を送られている方で、環境活動の重要性に対する深い認識と強いリーダーシップを感じました。

全社員運動の定着

各サイトの審査では、従業員への環境教育の浸透ぶりがはっきり分かりました。日頃の業務活動での役割をそれぞれが充分

に認識し、自然に行動しているようです。百貨店という大世帯での教育を思うと、ご苦労は並大抵ではないと推測されますが、環境問題はその重要性を従業員が理解し、納得してこそ成果があがります。環境保全に積極的な企業で全社員運動に参加することによって、家庭でも同じように環境に配慮し、しだいに地域・社会の環境活動に輪を広げていく。環境方針の基本理念には、そんな意味もこめられているとお聞きました。

継続的な改善に期待

いよいよ来年はISO14001規格の更新審査です。登録審査以降の3年間の活動成果が検証されます。

今回の定期審査では、ISO14001規格に適合していない事項は1件もありませんでした。環境目標の大幅達成や従業員啓発の手法など、評価すべき事項も多々ありました。しかし、環境影響評価の連続性の検証や、内部環境監査における指摘に対する是正処置などをはじめ、まだまだ改善の余地もございます。とくに事業の特徴を如実に表し、かつ影響が生じるとされる環境側面として位置づけられた「環境に配慮した商品の取り扱い拡大」は、大きな関心と期待を抱くところであります。

皆さまの更なる努力により、環境マネジメントシステムが継続的に改善され、社会全体の環境保全活動への貢献につながっていくことを期待しております。

財団法人日本品質保証機構(JQA)
ISO審査本部主任審査員

中田 智



社長インタビューを行う中田審査員(左)

環境活動のあゆみ 1990-2001年度

- 1990年7月 簡易包装の取り組み開始
社内用度品(コピー・OA用紙・名刺など)を再生紙に
- 1991年5月 紙ごみ分別回収開始
8月 「西武百貨店エコロジーハンドブック」発行
- 1992年8月 独自の「環境商品基準」に基づいた環境商品にアイキャッチマーク(エコノザウルス)表示
- 1995年3月 関東圏10店舗で衣料品の「ハンガー納品」システム導入開始
- 1996年2月 外商事業部でペットボトルのリサイクルビジネス開始
- 1998年3月 社内報で環境についての連載開始
4月 ISO14001規格認証取得に向けた活動を開始(経営トップセミナー実施、環境管理責任者任命、環境管理委員会・環境プロジェクト発足)
6月 環境庁主催「エコライフ・フェア'98」出展
9月 「環境方針」制定(社内報号外「西武百貨店の環境方針が決まりました」発行)
11月 環境活動アイキャッチマーク社内公募(617作品の応募。最優秀作を環境方針ポスターに採用)環境マネジメントシステム運用開始
中期環境活動計画設定(1997年度をベースに2000年度までの活動目標)
- 1999年4月 ISO14001規格認証取得(4月9日)
5月 全店の店頭にお客さま用3分別ボックス設置
6月 環境庁主催「エコライフ・フェア'99」出展
「環境にやさしい製品展」出展(北海道・旭川市)
7月 「エコアクション・さっぽろ'99」出展(北海道・札幌市)
10月 東戸塚西武オープン(エコステーション設置、廃棄物の約70%をリサイクル)
「'99とやま環境フェア」出展(富山県・高岡市)
- 2000年2月 「第34回船橋市生活展」出展(船橋西武特別催事場)
3月 環境プロジェクトを解組、環境推進室を新設
西武百貨店「環境記念日」(4月9日)制定
6月 「西武オリジナルエコロジーバッグ」販売開始
環境庁主催「エコライフ・フェア'2000」出展
8月 沼津市・沼津西武共催「エコライフ・フェア2000」開催(沼津西武店内)
9月 オーガニック食品「OAO」販売開始
「西武百貨店環境活動報告書」発行。環境会計掲載。
- 2001年3月 新中期環境活動計画設定(2000年度をベースに2003年度までの活動目標)
4月 西武百貨店「環境記念日」に「西武オリジナルエコロジーバッグ」売上の一部を地球環境基金へ寄付

会社概要

- 本社所在地 郵便番号171-8569
東京都豊島区南池袋1-28-1
- 本部所在地 郵便番号171-8530
東京都豊島区南池袋1-16-15 西武池袋ビル
- 代表者 代表取締役会長 / 松本康太郎
代表取締役社長 / 堀内 幸夫
- 設立 1940年3月14日
- 資本金 6,911百万円
- 業績

単位:百万円

	売上高	営業利益	経常利益
1999年2月期	572,468	12,628	6,352
2000年2月期	576,129	13,632	3,854
2001年2月期	565,221	12,319	4,057

- 商品構成 ファッション関連:59.1%、
雑貨・インテリア関連:15.7%、
食料品:18.7%、その他:6.5%(2001年2月期実績)
- 事業所数 本部 1、店舗 25、外商事業部 7、
海外駐在事務所 5、物流センター 2
- 従業員数 本社員 5,854人
パートタイマー 3,597人(換算人員)
- 関連会社 (株)ロフト、(株)シェルガーデン、(株)池袋ショッピングパーク、(株)ポロ・ラルフローレン ジャパン、
(株)リパティジャパン、(株)エルビス、(株)デ・グ
リフ・クラブ、ジャン・ルイ・シェレル・ジャポン(株)、
(株)エフ、(株)ファミリー西武、(株)ミレニアム企
画、(株)ハケ岳高原ロッジ、(株)大沢商会、朝日食
品工業(株)、朝日工業(株)、(株)ピサ、(株)ビジ
ネスシステムエージェント、(株)キャリアオン

「ISO14001」規格認証(マルチサイト方式)登録サイト

【店舗】

池袋西武	郵便番号171-8569 東京都豊島区南池袋1-28-1 電話03(3981)0111大代表
シブヤ西武	郵便番号150-8330 東京都渋谷区宇田川町21-1 電話03(3462)0111大代表
有楽町西武	郵便番号100-0006 東京都千代田区有楽町2-5-1 電話03(3286)0111大代表
船橋西武	郵便番号273-8550 千葉県船橋市本町1-2-1 電話047(425)0111大代表
所沢西武	郵便番号359-1198 埼玉県所沢市日吉町12-1 電話042(927)0111大代表
宇都宮西武	郵便番号320-8535 栃木県宇都宮市馬場通り2-3-12 電話028(632)0111大代表
筑波西武	郵便番号305-8508 茨城県つくば市吾妻1-1311-5 電話0298(51)0111大代表
川崎西武	郵便番号210-8578 神奈川県川崎市川崎区日進町1-11 電話044(245)0111大代表
東戸塚西武	郵便番号244-8530 神奈川県横浜市戸塚区品濃町537-1 電話045(827)0111大代表
静岡西武	郵便番号420-8555 静岡県静岡市紺屋町6-7 電話054(274)0111大代表
沼津西武	郵便番号410-8570 静岡県沼津市大手町3-1-1 電話0559(61)0111大代表
豊橋西武	郵便番号440-0888 愛知県豊橋市駅前大通り1-43 電話0532(53)2111大代表
岡崎西武	郵便番号444-8710 愛知県岡崎市戸崎町字外山38-5 電話0564(59)0111大代表
高槻西武	郵便番号569-1196 大阪府高槻市白梅町4-1 電話0726(83)0111大代表
八尾西武	郵便番号581-8680 大阪府八尾市光町2-60 電話0729(97)0111大代表
大津西武	郵便番号520-8580 滋賀県大津市におの浜2-3-1 電話077(521)0111大代表
つかしん西武	郵便番号661-0001 兵庫県尼崎市塚口本町4-8-1 電話06(6420)0111大代表
高知西武	郵便番号780-8531 高知県高知市南はりまや町1-8-1 電話088(883)0111大代表

だるまや西武	郵便番号910-8582 福井県福井市中央1-8-1 電話0776(27)0111大代表
富山西武	郵便番号930-8503 富山県富山市総曲輪3-4-15 電話076(492)0111大代表
札幌西武	郵便番号060-8555 北海道札幌市中央区北4条西3丁目 電話011(251)0111大代表
旭川西武	郵便番号070-8507 北海道旭川市1条通り8丁目右1号 電話0166(21)0111大代表
函館西武	郵便番号040-0015 北海道函館市梁川町9-3 電話0138(54)0111大代表
ams仙台西武	郵便番号980-8489 宮城県仙台市青葉区中央1-10-10 電話022(264)0111大代表
ほんきん西武	郵便番号010-8505 秋田県秋田市中通2-6-1 電話018(832)0111大代表

【本部】

西武百貨店本部	郵便番号171-8530 東京都豊島区南池袋1-16-15 西武池袋ビル 電話03(3989)0111大代表
---------	---

【外商事業部 地域営業部】

ノール部	郵便番号100-0005 東京都千代田区丸の内3-1-1 国際ビル 電話03(3213)6767大代表
関西外商部	郵便番号532-0011 大阪府大阪市淀川区西中島5-10-15 西武新大阪ビル 電話06(6305)7322大代表
千葉営業部	郵便番号260-0021 千葉県千葉市中央区新宿2-5-19 住友生命ビル3F 電話043(244)7771大代表
東北営業部	郵便番号980-0021 宮城県仙台市青葉区中央4-1-26 レインボービル4F 電話022(262)1850大代表
東海営業部	郵便番号420-0852 静岡県静岡市紺屋町3-10 中島屋ビル3F 電話054(252)2711大代表
名古屋営業所	郵便番号450-0002 愛知県名古屋市中村区名駅3-14-16 東洋ビル9F 電話052(583)4717大代表

【物流センター】

朝霞センター	郵便番号351-0014 埼玉県朝霞市膝折町2-16-1 電話048(462)4551大代表
門真センター	郵便番号571-0006 大阪府門真市大字上馬伏346-1 電話072(886)2001大代表

2001年8月24日発行(次号は2002年6月発行予定)

お問い合わせ

西武百貨店 環境推進室

郵便番号171-8530 東京都豊島区南池袋1-16-15 西武池袋ビル

電話03(5396)3208 ファックス03(5396)5206

西武百貨店ホームページ www.seibu.co.jp



エコマーク認定の再生紙を
使用しています。



010731

*本誌は再生紙100%・大豆油インキを使用し、再生可能です。